

● 会場情報 ●

11月 7日(金)

神戸新聞 松方ホール

全席指定

〒650-0044
神戸市中央区東川崎町1-5-7
神戸情報文化ビル4階
TEL/078-362-7111



11月 24日(月・祝) 神戸新開地・喜楽館

自由席

〒652-0811
神戸市兵庫区新開地2丁目4-13
TEL/078-335-7088



11月 27日(木)

WADAホール

自由席

〒650-0023
兵庫県神戸市中央区栄町通4-2-13
TEL/078-362-1358

本会場は鈴木商店創業の地でもあります。



11月 28日(金)

神戸新開地・喜楽館

自由席

11月 30日(日)

神戸新開地・喜楽館

自由席

12月 1日(月)

WADAホール

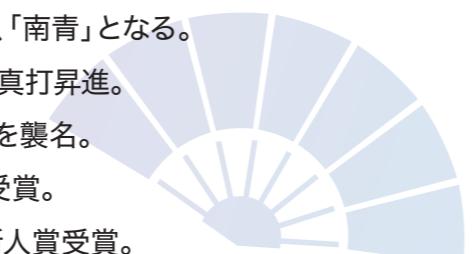
自由席

※本公演は、全日程同一演目となります。未就学児の入場はご遠慮ください。



旭堂南龍 プロフィール

2004年、旭堂南左衛門に弟子入り、「南青」となる。
2018年、上方講談界で27年ぶりの真打昇進。
同時に上方の名跡「南龍」を襲名。
2019年、大阪市「咲くやこの花賞」受賞。
2021年、第76回「文化庁芸術祭」新人賞受賞。



神戸で創業した鈴木商店は、数多くの製造事業を設立し、日本の産業革命を牽引した。個人商店でありながら、大正期には財閥を凌駕し、日本一の総合商社に上りつめるも、昭和二年に破綻。しかしその後も鈴木商店が育んだ人材と事業は現在まで脈々と受け継がれている。知られざる逸話も交え、鈴木商店の百折不撓の物語を、講談師の旭堂南龍が語る。

講談会

鈴木商店 百折不撓

「知られざるその後」



旭堂南龍

2025

料 金 2,500円(税込) 一般発売 8月7日(金)

11月 7日(金) 神戸新聞 松方ホール 開場 17:30 / 開演 18:00

11月 24日(月・祝) 神戸新開地・喜楽館 開場 10:00 / 開演 10:30

11月 27日(木) WADAホール 開場 18:00 / 開演 18:30

11月 28日(金) 神戸新開地・喜楽館 開場 18:00 / 開演 18:30

11月 30日(日) 神戸新開地・喜楽館 開場 10:00 / 開演 10:30

12月 1日(月) WADAホール 開場 18:00 / 開演 18:30

各会場とも公演時間は約75分

主催 / ラジオ関西

特別支援 / 双日 特別協賛 / 太陽鉱工グループ 協賛・協力 / 鈴木商店関係企業・団体
特別後援 / 辰巳会 鈴木商店記念館 後援 / 神戸市 神戸新聞社 神戸大学

協 賛

特別支援

双日株式会社
sojitz

特別協賛

太陽鉱工株式会社
In Step with the Future
NICHIRIN

日本精化株式会社

協賛・協力

KOBELCO
SINFONIA
日油
NICHEN
NKY
共榮株式會社
株式会社後藤回漕店
大木組
株式会社こうべ未来都市機構
辰巳会 鈴木商店記念館

TEIJIN
IHI
JOYL
日本化薬
北越東洋ファイバー株式会社
池田興業株式会社
有馬温泉 銀水荘別館
KAMEIDO SOHONTEN
阪神国際港湾
ekisoare

DAICEL
JMU
AMTEC
SAPPORO
乾杯を
もっとおいしく。
NHKニッパツ
日本発条株式会社

特別後援

後 援

神戸市 神戸新聞社 神戸大学

鈴木よねさんからの贈り物

本公演は協賛企業各社のご協力により、
神戸市を通じて教育、港湾、観光関係者100名をご招待しています。

招待事業

ご鑑賞のみなさまに、創業時の鈴木商店の
取引先である亀井堂総本店の瓦せんべいをプレゼント！

鈴木商店
刻印人



鈴木商店とは

「幻の総合商社・鈴木商店」は開港間もない明治7(1874)年、神戸で洋糖引取商を創業。製糖、樟脑、薄荷からセルロイド、鉄鋼、造船、人絹と、軽工業から重化学工業へ多角化。大正6(1917)年には、売上が当時のGNPの1割にも匹敵し、日本一の総合商社となる。

しかし、現在の神戸市中央区栄町通7丁目にあった本社屋は米騒動で焼き打ちにあい、大躍進に暗い影を落とす。



鈴木 よね

鈴木商店の創業主・鈴木岩治郎の妻・
よね。明治27年、岩治郎の急逝後、
経営を番頭の金子直吉に託す。直吉
の商才を見抜いたよねは経営に一切
の口出しをしなかったが、一方で女子
教育の支援など神戸の発展に貢献
した。



金子 直吉

主家・岩治郎の死後、経営を任せられた
金子直吉は、多くの政治家や官僚とも
親交を持ち、国益を志向して多くの
事業を展開。次々と製造業を立ち上
げたことから“煙突男”と呼ばれ、かの
渋沢栄一をして「事業家として天才
だ」と言わしめた。

鈴木商店年表

西暦	年号	出来事
1874	明治 7	鈴木岩治郎、神戸の内海岸通四丁目(現・栄町通4丁目)にて 鈴木商店創業
1886	明治 19	金子直吉、丁稚奉公として入店。後に「煙突男」「財界のナポレオン」と称される
1894	明治27	岩治郎死去。妻よね(お家さん)、経営の一切を直吉に委ねる
1900	明治33	神戸に樟脑工場を設立し、製造事業に進出
1905	明治38	神戸製鋼所を設立。以降、80もの事業を設立、明治・大正期の産業革命を牽引
1917	大正 6	第一次世界大戦の好景気もあり、鈴木商店の貿易年商は日本一に 高畠誠一は連合国相手に強気のビジネスを展開、カイゼル(皇帝)高畠と恐れられる
1918	大正 7	米騒動、鈴木商店本店焼き打ち事件
1922	大正 11	ワシントン海軍軍縮条約による重工業不振。翌年、関東大震災により苦境に
1927	昭和 2	鈴木商店破綻
1928	昭和 3	高畠誠一ら日商(現・双日)を設立。神戸製鋼所、帝人など優良事業は自主再建 金子直吉は太陽曹達(現・太陽鉱工)にて再起を図る

鈴木商店記念館とモニュメント



鈴木商店記念館は、そこに生きた人々の群像、
関係した企業集団についての調査資料、現代への遺産
など、経済史の視点から「総合商社 鈴木商店」を紹介する
インターネット上の記念館として情報を発信しています。



また、神戸港開港150年記念(2017年)として、ゆかりの企業の協力のもと、
米騒動の際に焼き打ちされた鈴木商店本店跡地にモニュメントを建立、
神戸市に寄贈しました。

2027年に神戸港は開港160年を迎え、かつ、鈴木商店が破綻し、その魂を
受け継いだ社員らが再出発してから100年にあたることから、鈴木商店創業
の地に新たなモニュメントを建立する予定です。

(創業の地は、栄町通4丁目、現在の和田興産本社ビルに位置します)